

## ◆先輩からのアドバイス◆

### 論文や文献を読むときに意識していること

大学生生活の総まとめとして、最終学年で行われることが多いセミナーですが、セミナーで発表をするために、論文や文献を読むことになります。その中で私が意識していることをここでは述べていきたいと思います。

#### (1) 行間を埋める。

これは数学科特有のことかもしれません。数学の論文や文献では、定理の証明や途中計算が省略されていることが多いです。しかし、書かれている定理が本当に成り立つのかどうかについて考えたり、省略されている計算過程を明らかにしたりして、誰にでも解説できるようにしなければなりません。この視点を持って論文や文献を読まなければ、質疑応答されたときにきちんと答えられないなど、発表の際にうまくいかないことがあります。そのため、論文や文献を読む際には、省略された部分を補うという意味で、“行間を埋める”といった作業を行っています。

#### (2) 定理の証明や計算方法が分からないときは、簡単な場合から考える。

論文や文献を読む際には、上で述べたように自力で行間を埋めなくてはなりません。場合によっては定理の証明方法や、どのような方法で計算すれば良いのか見当がつかないことがあります。そのときには、簡単な例で定理や計算が成り立つのかどうかを検証し、そこから法則を見つけ出して一般化するということを意識しています。

このようなことを考えて、私は論文や文献を読んでいます。この記事が皆さんの学業のお役に立てることができれば幸いです。

(理工学研究科 M1)